

「国保税値上げしないで」の市民の声届く 17.4%の引き上げ案否決される



日本共産党市会議員

館田るみ子活動だより

第50号

二〇一三年四月
日本共産党東青地区委員会
青森市中央三丁目二一―十五
七七七 七二四一
市役所内 七二二 八九〇四

毎年、バスの時刻表を4月にお配りしていましたが、今年度からバス時刻の改正は、十月一日に変更になりました。それまでは二十四年度の時刻表のままです。

館田るみ子市会議員は、三月議会では、国保税、難病患者の福祉乗車証、障害者の福祉タクシー券、空き家条例、津波対策などについて質問しました。

払いたくても 払えない 高い国保税

館田るみ子市議は、国保運営協議会でも議会でも「今でも国保税を払えないでいる世帯は約三割（一万四千世帯）もいる。国保加入者の生活実態をよく見てほしい」と訴えてきました。

職と派遣やパートなどの非正規労働者です。（農漁業や自営業者は十二・三％）所得なし世帯が三〇・九％もあり、8割を超す世帯が所得二百万円以下の世帯です。今でも4世帯に1世帯が滞納している状態なのに、国保税の引き上げは滞納者を増やすだけです。

館田議員は5日の一般質問で鹿内市長に「国保は社会保障と認識しているのか」とたどしました。鹿内市長は「社会保障だと思っている。出来れば引き上げをせずにいたい。市の財政を考えれば全額繰り入れを出来ない」と答弁しました。

議会の否決で 引き上げは回避

国保は 社会保障

国保会計の赤字の原因は、国が国庫負担を50％から半分の25％に削減してきたことと、重度心身障害児者や乳幼児医療費の現物給付をおこなっている自治体に課してき

国保運営協議会では8対3で引き上げを認めましたが、議会では「一七・四％は支払い能力の限界を超えている」「引き上げ幅が大きすぎる」などの意見が続出し、全会派の議員の反対で引き上げの条例を否決しました。



自席から再質問する館田議員

たパネルティ分を一般会計から繰り入れて補てんをしてきたのに、平成8年度（佐々木前市長時代）から繰り入れをやめてしまったからです。

当面の引き上げは回避されましたが、「国保税の引き上げを行わないことを求める陳情」は賛成少数で否決されています。館田市議は、国保運営協議会、議会の一般質問、民生・環境常任委員会、議会最終日の討論で「引き上げは滞納者を増やし、

病気の市民を病院から遠ざけて重症化させ、かえって医療費が増えるという悪循環を繰り返す。国に国庫負担額の削減をやめるよう強く求めていくと同時に、市民のいのちと健康を守るという市の責務を果たすためにも、当面は他都市も行っているように全額一般会計から繰り入れをおこない、引き上げを押しさえるべき」と求めました。

難病患者にも福祉乗車証の交付を求める

館田市議は「病院に通うのにバス代が二万円以上もかかり、食事を削るか治療をやめるか悩んでしまうという訴えが寄せられている。難病患者にも福祉乗車証を交付すべきでないか」と求めてきましたが、市は「国の動向を見極めながら対応していく」と答弁してきました。

防犯カメラと 風雪よけのシェルター完成



市民の声届き、要求実現

日本共産党石江後援会は、昨年の五月十七日、市に要望書を提出し、石江地域の生活環境の改善と3・2・2内環状線につながる石江地下道の冬期対策と防犯対策を求めました。

駐車場満車で電車に乗り遅れる 早急に駐車場の増設を

新青森駅

館田市議は、新幹線を利用する市民から「新青森駅の駐車場が満車のために電車に乗り遅れてしまった」「駐車場に入れない車が道路に先が見えない位並んでいる」「付近の民家に頼んで駐車させてもらいかるうじて次の便に乗れた」等の訴えが寄せられていると紹介し「駐車場を増やす



駐車場に入れず、道路に並んだ車

べきでないか」と求めました。工藤雅史都市整備部理事から「十二月から二月までの三ヶ月間で満車となったのは、西口が二十日間、南口が九日間で、平日が五日間、土日祝日が十五日間だった。開業から三年目を迎えて駐車場の利用者も増えているので、民間駐車場の進出がないかどうかを見極めながら、慎重に検討していく」と答弁がありました。

館田市議は、利用できる空き地(保険留地のこと)が近くにあるうちに駐車場として活用すべきと提案しました。

津波から住民や 海水浴の子どものを守る対策を

館田市議は、これまで、油川地区には、津波や水害が発生した場合、天田内川と新井田川に挟まれ、避難所となる公共施設にいけない避難空白地域があると指摘し、対策を求めてきました。一月二十九日に県が発した「津波浸水予測図」では、地震発生から、二分で津波の第一波が油川に到達すると示されました。(発生頻度は極めて低いが発生すれば甚大な被害をもたらす青森湾西岸断層帯でおきるマグニチュード6.7の地震を想定)

海抜表示板の 設置を急げ

館田市議は、今回の津波予測により、近くに高い建物がない海岸沿線に住む油川住民を津波から守る対策を示すよう求めました。相馬政美総務部長は「津波到達時間が短い地域には、非常に厳しい避難条件であるが、可能な限りでの高台又は高い建物に逃げる垂直避難、あるいは、できる限り海岸線から離れる水平避難を行うために、日頃からの避難方法、場所の確認、

障害者 福祉タクシー券

青森市は、身体障害者手帳一級の障害者等に福祉タクシー券(五二〇円の利用券を年間四十八枚)交付しています。

館田市議は「枚数に制限を付けずに何枚でも利用可能にしている自治体の方が多いと紹介し、一回の乗車で一枚だけと限定せずにせめて二枚使用できるようにすべき」と求めました。

油川小学校通りに 流融雪溝整備される



流融雪溝が整備された学校前

油川小学校通りは道路も歩道も狭いので「子どもたちの安全のためにも融雪溝を設置してほしい」との要望を受け、館田市議は、諏訪益一県議の力も借りて、県と交渉し実現にこぎつけました。一部工事が残っていますが、二十五年冬の冬から利用出来るよう、引き続き働きかけてまいります。

「空き家条例」制定される

油川大浜の放置廃屋

行政指導をおこなう

館田るみ子市議は、地域住民の安全・安心をおびやかす危険な老朽空き家の対策を求めて質問を続けてきました。が、昨年の6月議会ですべて「条例制定を目指す」と鹿内市長が表明。三ヶ月議会ですべて「空き家等の適正管理に関する条例」が可決され、四月一日から施行されます。

三月五日の一般質問で館田市議の「倒壊のおそれがある危険な空き家はどのくらいあるのか」との質問には「たびた

び通知し、直接訪問を行い、接触機会の確保に努めてきたが、条例制定の暁には条例に基づき、指導、勧告、命令、氏名公表など一連の手続きをもって解決に向けた所有者交渉をおこなう」と答弁がありました。

東奥日報三月六日付に掲載された「市議会一般質問」で空き家条例について質問したのは山脇市議ではなく、館田市議です。東奥日報は館田市議に謝罪をし、七日に訂正文を載せました。